

扇川緑道コース散策案内

扇川

扇川の名は神ノ倉に在る熊野社の祭礼で稚児の川に落とした舞扇の美しきに因むとされています。古名を黒末川と言い、白土の大池に水源を発し、神ノ倉・黒石の神沢池から流れる神沢川と合流し、途中細口川・水広下川・滝ノ水川・旭出川などが合流します。中島橋の下で桶狭間・有松より流れる手越川を合わせて、旧宿場町の南端を流れ、天白川に沿って水主ヶ池を水源とする大高川と合流します。天明(1781)の頃に天白川との分流が完成し、最近まで中堤防が河口でした。現在名四国道の天白扇川橋の手前で天白川に合流して名古屋港に注ぎます。長さ約 9.8km、流域面積約 29.8 平方 km の 2 級河川で、満潮時には焼田橋付近まで潮が上がってきます。中流域の両岸は草木の緑道で整備され桜並木や花壇、川には鯉・鮒や亀、岸にはアオサギ・コサギ・カモなどが訪れて四季折々の風情が楽しめます。

扇川と防災のあらまし

下流域の鳴海は江戸時代に宿場町として栄え、扇川は年貢米や物資の運搬に広く利用され、古くから市街化が進んでいました。一方上流域は農耕地と山からなるのどかな田舎の雰囲気 で流域では大池・要池・水広下地・平手池・新海池等多くの池が農業用に使われてきました。昭和 40 年代以降、土地区画整理事業により大規模な宅地開発が行われるようになり、ため池は消滅や縮小しました。こうした流域の変貌に伴って、下流域の低平地の市街地を中心に浸水被害が頻発するようになりました。このため昭和 41 年度から愛知県、昭和 45 年度から名古屋市が河川改修を進めてきました。また河川改修以外にため池を洪水調節池として改修し、学校のグラウンドなどの地下に礫間貯留層を設置したり、区画整理事業において防災調節池の設置を義務付けたりして扇川への負担を減らす努力が行われています。

雨水を溜める場所①、④、⑤、⑩、⑪

扇川へ一時に大量の水が流れ込まないように、次の場所で溜められるようになっています。

ため池(洪水調節池) 大池、神沢池、要池、水広下地、平手池、新海池、琵琶ヶ池等

公園(防災調節池) 扇川公園、梨ノ木公園、通曲公園、諸ノ木北公園、平手北公園、平手南公園、姥子山中央公園、滝ノ水中央公園等

学校(雨水貯留施設) 小学校、中学校、高等学校内のグラウンドなどの地下に埋設

鳴海東部の古窯跡

昭和 40 年代始めから住宅開発が始まり、多くの古窯跡が発掘されました。鳴海地区では約 90 ヶ所知られています。古窯跡は猿投西南麓古窯祉群(さなげせいなんろくこようしぐん)と言われ、奈良時代から室町時代まで続きました。釉薬の無い古い陶器で、初期は灰色の須恵器でした。次第に灰を載せた灰釉陶器(かいゆうとうき)が作られ、亀ヶ洞地区では貴重な緑釉陶器が発掘されている。最後の頃は粗末な山茶碗(やまちゃわん)・山皿(やまざら)が大量に生産されて役割を終え、釉薬を載せた古瀬戸へ引き継がれていきました。

① 大池

昔は赤松池と言い、鳴海を東西に横断して流れる扇川の源流となっています。築造時期は不詳ですが、元禄年間(1688～1703)当村下郷次郎八日記に捷杖樋替(しょういりといがえ)の事を託すと記載された文化遺産です。

② 兵庫橋人道橋下の鯉の群れ

③ 熊野社

熊野社の創建は不詳で、最初現在の諏訪社の位置に作られました。祭神は伊弉諾尊(イサナギノミコト)と伊福利部連命(イフクリベムラジノミコト)で、熊野三社に源があります。鎌倉・室町時代に熊野信仰が盛んになり、熊野社に布教した熊野比久尼(ビクニ)が住んでいた小屋跡があります。最近まで諏訪社の氏子が管理していましたが、東部地区が発展して独立しました。

③a 桜の見所―熊野社表参道

淡墨桜の若木も育っています。

④ 扇川公園(雨水調節池)

季節には百合の花がまわりいっぱいに咲きそります。

⑤ 神沢池

神沢池は 1.5 万平方メートルで未だ自然が残って里山の風情が感じられます。

⑥ 桜の見所―徳重橋

⑦ ユメリア徳重

緑区役所支所、緑保健所徳重分室、徳重図書館、徳重地区会館。 屋上庭園からの展望が見事です。

⑧ 徳重交通広場

地下鉄、バスセンター

⑨ 緑文化小劇場

⑩ 要池

築造時期は不詳ですが、寛文 10 年(1670)雨池堤間数の覚帳に記載された現存する文化遺産であります。大きな池でしたが、コンクリートで固めた調節池となりました。扇川の一支流の神沢川に繋がり要にある池で要池と言います。戦後しばらく水車小屋がありました。

⑪ 扇台中学校:(礫間貯留層)

⑫ 通曲橋の看板

昔の地名が刻まれています。

⑬ 清兵衛先生顕彰碑

天保の頃庄屋の小島清兵衛が息子と二代寺子屋を開き、明治 6 年幼導学校を開設しました。孫の六代清兵衛は志を継ぎ東部小学校の揺籃期に訓導として 30 余年学童教育に情熱を傾けました。昭和 2 年教え子達が清兵衛先生顕彰碑を建立し、東部小学校西の鳴海商工会東部支所前に三忠魂碑と並んでいます。

⑭ 平手神明社

平手新田の氏神であり、江戸時代の承応 2 年(1653)に開発された新田村に勧請されました。明治 26 年(1893)に造られた拝殿が老朽化したため、昭和 62 年(1987)に本殿・拝殿を造営しています。境内には「平手新田造営奉賛碑」と「平手の町と神社の由来」の碑があります。

⑮ 道しるべ地蔵(報恩寺内 他)

境内にはかつて平手交差点にあった道しるべがあり、「左白土」「右モロノキ」と刻まれています。他に熊野社参道前の正観音堂や後山墓地、鶴ヶ沢霊園内、白土にあります。

⑯ 桜の見所-鳥澄人道橋

⑰ 環状 2 号線、名古屋第二環状自動車道

名二環と整備された国道 302 号が平成 23 年 3 月 20 日に開通しました。

⑱ 豊穰の里(石神堂公園内)

区画整理事業の完工を祝って建立されました。

⑲ 諏訪社

創建は不詳で神ノ倉の熊野社が古くからの氏神でありましたが、後に戦いの神として信仰の厚い諏訪明神を勧請しました。そのため熊野社を山奥の神ノ倉へ移転し、諏訪上社の祭神の建御名方(たけみなかたのかみ)を祀りました。境内に山神社他多数の神が鎮座しています。

⑳ 緑福祉会館・児童館

㉑ 水車小屋跡の看板

昭和 40 年頃まで扇川が蛇行し流れていたとき、水車がありました。その跡の一カ所に看板が建っています。

㉒ 緑スポーツセンター

㉓ 相原庚申堂

諏訪社東の鎌倉街道に庚申堂があり、手水鉢に相原観音堂と同じ「天保十二年丑三月」の銘が刻まれています。建立は日露戦争の頃と言われますが、詳細は不明です。

㉔ ミヤコワスレ・カエデレリーフ

ミヤコワスレは緑区の花で、カエデは緑区の木です。このレリーフは焼田橋にあります。